

## ● 海外都市行政視察を終えて

団員 松井 宏治

松山市議会議員海外都市行政視察団6名による今回の視察は、「サクラメント姉妹交流・マツヤマ小学校訪問」、また、「観光資源活用」「環境対策」「動物愛護の取り組み」「農業関連（ＴＰＰ）」など、幅広いテーマで視察研修を行うことができた。松山市は、昭和56年8月にサクラメント市と姉妹都市提携を結んでから、ちょうど30年が経過したため、サクラメント市を中心として、その近隣都市であるサンフランシスコやロサンゼルスへの視察も含め、1月31日から2月8日までの9日間の日程で行われた。

それぞれの場所での視察すべてが記憶に残るものであったが、観光資源活用については別途記述しているので、それ以外のテーマに絞りいくつか感想を述べてみたい。

まずは、サクラメント市役所の訪問である。サクラメント市の中心部にある市役所だが、歴史を感じさせる本館のような建物と、近代的な建造物である新館のような建物の2つがあり、いずれもまちの雰囲気にもふさわしいものであった。当初の予定では、新しい建物内にある現在使用している議場の中には入るはずであったが、急遽、市民公開講座としての勉強会が行われていたため、入室することができなかった。議場には、40人から50人もの市民が集まっており、行政への関心の高さを伺うことができた。議場に入室できなかったことは残念だったが、もう1つ、当初の予定になかったことがおき、当日は出張のため不在のはずであったケビン・ジョンソン市長との突然の面会が実現することになった。ケビン・ジョンソン市長は、マイケル・ジョーダンやマジック・ジョンソンらと肩を並べ、彼



（議場での市民公開講座の様子）

らと同時期に活躍したNBAのスタープレイヤーであるが、とても気さくに対応していただき本当に感謝している。



(サクラメント市議会議員)  
(左:スティーブ・コーン議員  
右:ダレル・フォン議員)

その後、スティーブ・コーン市議とダレル・フォン市議との面談。現在、サクラメント市で最も改善しなければならない問題について話が及んだが、その具体的な問題とは深刻な失業率であった。サクラメントは、人口約46万人で、カリフォルニア州の州都であり、経済ではなく政治・行政の都市である。現在、サクラメントは、とにかく仕事がなく、もともと産業もない。カリフォルニ

ア州の経済活動の拠点は、ロサンゼルスやサンフランシスコなどが中心であり、サクラメントは、行政・統治機関が集積する都市であるため、市民の大半は公務員である。カリフォルニア州はこのような構成であるため、サクラメントは、どうしても新たな仕事を生み出す経済活動や産業活動ができにくく、どのようにして仕事を作り出していき、失業率を改善させていくのかが深刻な問題であるとのことであった。

そして、その日の午後にマツヤマ小学校を訪問した。実際に6年生と4年生の教室を訪問し、短い時間であったが、子どもたちとふれあうことができた。6年生の6人のグループの子どもたちへ、片言の英語とジェスチャーで折り紙を使った鶴のおり方を教えながら一緒に作ったのだが、想像以上に子どもたちが折り紙に興味を持ち、「次はどうやるの?」「ここができない、教えて」「ありがとう」と目を輝かせる姿に心をうたれ、また、英語でのコミュニケーションも新鮮で、こちらが逆に元気をもらい、マツヤマ小学校に来てよかったと心から感じた。

その後、ゴールドラッシュにわいた約150年前の面影が残る「オールドサクラメント」などを訪問し、まったくの異文化を体験することができた。

2月4日、「マグラース・ファミリー・ファーム」という農場を視察すること

ができた。見渡す限りの広大な農場で、数えきれないほどのビニールハウスもあり、数百種類の農作物を生産している農場であった。実は、2008年、カリフォルニア州の農作物は、州内で作る農作物よりも州外からの農作物の輸入量が上回ってしまい、各農家では、非常に危機感をいだき、生き残りをかけていたの



(ビニールハウスといちご畑)

が現状であった。そのため、この農場では、とにかく他の農場との差別化を目指し、オーガニック（有機栽培）に力を入れてきた。安全・安心の農産物を生産し、消費者に届ける。そして、生産者の顔が見えるように消費者にアピールし、それぞれの農作物にストーリー（物語）を作っていく。クオリティーも上げ、どのようにして栽培された野菜なのかを心を込めて消費者に伝えていた。

そんなある日、この農場のオーナーが、ロサンゼルス・サンタモニカの直売所で農作物を販売していた際、その野菜が幸運にも全米を代表する有名なシェフの目にとまり、そのシェフの高級レストランとコラボした農場として一躍有名になった。そして、現在では7カ所で直売し、40カ所のレストランへ直接納品する販路を持つことができ、カリフォルニアを代表する農場となっている。しかし、このような先進的な取り組みを行い成功している農場でさえ、その労働者の7割以上がメキシコを初めとする不法入国の移民である現状を知る。つまり、安い労働力を法を犯してでも雇わなければ、このような成功を収めている農場でさえ農業が成り立たないという現実を目の当たりにし、各国がかかえる農業問題も、それぞれ大きな問題をかかえていることを実感した。

その他にも、サクラメント電力公社での研修やロサンゼルス・ホーム・デポ・センターの視察、さらには、SPCAやUCLAなど多くの視察を行うことができ、それぞれの担当者からの熱心な説明に心から感謝している。

最後に、このような貴重な経験を与えてくれたすべての皆様に感謝をし、また、今後の市政に役立てていくことをお約束し、海外視察の報告とさせていただく。